日本簿記学会ニュース

No. 66:12／2018

《大会の経過報告》

第 34 回全国大会は，2018 年 8 月 23 日 (木) から 25 日 (土) に西南学院大学 (準備委員長：伊藤龍峰氏) にて開催されました。詳しい内容は本紙全国大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第 35 回関西部会は 2019 年 5 月に兵庫県立大学にて，第 35 回関東部会は 2019 年 6 月に小樽商科大学にて，第 35 回全国大会は，2019 年 8 月に中央大学（準備委員長：上野清貴氏）にて各々開催される予定です。

《第 34 回全国大会正会員出席者状況》

第 34 回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全　体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	196 名	174 名	12 名	4 名	1 名	5 名
比　率	100.0%（注）	88.8%	6.1%	2.0%	0.5%	2.7%

（注） 各区分の比率を小数点第 1 位未満で四捨五入しているため，僅少差 0.1%が生じておりますが，便宜上，表示しておりません。

《平成 30・31 年度研究部会のテーマおよびメンバー》

平成 30・31 年度研究部会のテーマおよびメンバーが，先の総会にて下記の通り承認されました。

簿記理論研究部会　テーマ：「AI 時代のコンピュータ会計と簿記」部会長：岩崎勇（九州大学）
（メンバー）高須教夫（兵庫県立大学），坂上学（法政大学），島本克彦（大和大学），千葉啓司（千葉商科大学）
（オブザーバー）藤井秀樹（京都大学）

簿記教育研究部会　テーマ：「簿記講義法に関する研究―ティーチング・ティップスの作成―」
部会長：宗田健一（鹿児島県立短期大学）
（メンバー）大槻晴海（明治大学），小澤義昭（桃山学院大学），清村英之（沖縄国際大学），
杉田武志（大阪経済大学），飛田努（福岡大学），仲尾次洋子（名桜大学），長束航（福岡大学）
（オブザーバー）佐藤信彦（熊本学園大学）
（アドバイザー）坂上学（法政大学），島本克彦（大和大学），清水泰洋（神戸大学）

簿記実務研究部会テーマ：「非営利組織体の簿記に関する研究」部会長：小野正芳（千葉経済大学）
（メンバー）青木孝暢（白鷗大学），石田万由里（玉川大学），市川紀子（駿河台大学），佐藤恵（千葉経済大学），
中野貴元（全国経理教育協会），中村文彦（長野県立大学），舩津丸仁（トーマツ），
丸岡恵梨子（流通経済大学），望月信幸（熊本県立大学），山下修平（秀明大学），吉田智也（中央大学）
（オブザーバー）大塚成男（千葉大学），坂上学（法政大学），成川正晃（東北工業大学）

《役員の交代について》

日本簿記学会第 34 回全国大会において，長年，幹事を務められた渡邊貴士氏（亜細亜大学）が勇退され，あらたに小阪敬志氏（日本大学）が幹事に就任されました。

《平成30年度日本簿記学会学会賞および奨励賞について》

平成30年度の日本簿記学会学会賞及び奨励賞は，学会賞審査委員会（委員長：泉 宏之，委員：橋本武久，松本敏史，粕谷和生，藤井禎晃）における選考とその結果報告を受けて，理事会において次のように決定した。

学会賞：渡邉 泉『会計学の誕生 －複式簿記が変えた世界―』（岩波新書，2017年11月発行）
奨励賞：加藤美樹雄「収益認識時における仕訳と勘定科目の考察－本人か代理人かの判断を中心として－」『簿記研究』第1巻第1号，2018年（J-STAGEにおいて2019年2月以降公開予定）

学会賞講評

受賞作：渡邉 泉『会計学の誕生 －複式簿記が変えた世界―』岩波新書，2017年11月。

本書は，その書名が示す通り，中世イタリアにおける複式簿記の生成から現代にいたるまでの会計学の史的展開過程を，それぞれの時代や地域における社会経済的背景とともに概観し，簿記および会計学の社会的意義を啓蒙したものである。

その内容は，副題に「複式簿記が変えた世界」とあるように，一貫して豊富な史料を基にした複式簿記における記録の本質論からの考察であり，本学会賞の趣旨に適合した内容であると言える。

なお，筆者は今日における会計学の方向性についても問題視し言及している。この点については，著者の独自の観点が色濃く反映されていることから，賛否両論があるものと想像されるが，その主張は筆者の40年にわたる歴史研究を基にしており、高い信頼性を有するものと判断する。

また，今日においても，社会一般に対して大きな影響力を有する岩波新書の一冊として，簿記の歴史に関する著書が初めて出版されたことは，簿記の構造や機能に対する社会の認識が深まる可能性があるとともに，教育的側面にも影響する可能性を秘めているものと思量され，これらの点からも高く評価できる。

以上の結果，審査委員一同は，本書が本年度の日本簿記学会学会賞にふさわしいものと判断する。

奨励賞講評

受賞作：加藤美樹雄「収益認識時における仕訳と勘定科目の考察
－本人か代理人かの判断を中心として－」，『簿記研究』第1巻第1号，2018年。

本稿は，売上時における他の当事者が関与するいくつかのケースについて，IFRS15の本人か代理人なのかという判断を参考に，日常の取引記録における仕訳や勘定科目について考察したものである。具体的には，各種の税金と各種のポイント制度の簿記処理をとりあげ，検討を行っている。

IFRS15では，財務諸表の表示についての指針を中心に示しており，取引時における簿記処理などについての指針は示されていない。そこで，筆者は、取引時における簿記処理に焦点を当て考察を行い，日常の管理目的からすれば，売上時に他の当事者が関与する場合には，そのことを適切に仕訳や勘定科目に反映させることの重要性を指摘している。

本稿では，一貫して複式簿記の記録という側面と記録による管理機能とを重視している点は，簿記研究の観点からは評価に値する。なお，具体的にとりあげた取引が多く，個々の取引について十分な検証が行い得ていない感はあるが，その点は今後の研究の発展に期待したい。

以上の結果，審査委員一同は，本稿が本年度の日本簿記学会奨励賞にふさわしいものと判断する。

《日本簿記学会学会賞審査委員会からのお願い》

学会賞審査委員会では，会員の皆様からの学会賞候補にふさわしい著書等のご推薦をお願いいたします。推薦の手続等については，学会ホームページをご確認ください。また，推薦書籍等については5部ご提出ください。

日本簿記学会学会賞審査委員会

《全国大会記》

日本簿記学会第 34 回全国大会記

西南学院大学
準備委員長　伊　藤　龍　峰

日本簿記学会第 34 回全国大会が，西南学院大学において，8 月 23 日（木）から 25 日（土）までの 3 日間にわたり，統一論題を「複式簿記における記録の信頼性」と設定して開催された。1 日目は，学会賞審査委員会および理事会が開催されたが，この大会記では，2 日目以降の概要を記す。

2 日目は，午前中に高校簿記教育懇談会が，工藤栄一郎氏（西南学院大学）によって「簿記会計基礎教育の社会普及と高大連携」と題して講演が行われ，高等学校教員会員ばかりではなく，多くの大学教員会員の出席を得た。当日は，午後から会員総会を経て，統一論題報告が行われた。

統一論題報告は，座長の松本敏文氏（早稲田大学）による，「座長挨拶・解題」として統一論題の趣旨説明がなされた後に，第 1 報告者の渡邉泉氏（大阪経済大学）が「会計の役割と記録の信頼性―歴史からのメッセージ―」，第 2 報告者の髙橋聡氏（西南学院大学）が「現行会計制度における複式簿記の意味と記録」，そして，第 3 報告者の福川裕徳氏（一橋大学）が「記録の信頼性に対する新技術の影響」と，それぞれの個別テーマの下に報告がなされた。

統一論題報告の後に，戸田龍介氏（神奈川大学）を司会として，3 つの研究部会報告が，それぞれ最終報告として行われた。簿記理論研究部会は，「簿記における計算構造の総合的研究（部会長：上野清貴氏（中央大学）），簿記教育研究部会は，「高大連携の視点から考える簿記教育」（部会長：加瀬きよ子氏（東京都立芝商業高等学校）），そして，簿記実務研究部会は，「収益会計の現状と課題」（部会長：梅原秀継氏（明治大学））であった。2 日目の大会スケジュールは以上のとおりであったが，研究部会報告の後に，学内のレセプションルームに場所を移して懇親会が行われた。

3 日目は，3 会場で計 8 つの自由論題報告（お一人から直前に報告辞退の連絡があったため，当日は，8 つの自由論題報告となった。）と，統一論題討論が行われた。

第 1 会場は，坂上学氏（法政大学）の司会で，金子善行氏（帝京大学）「経済主体観と世代間衡平性―Johns 学説および Lüder 学説に依拠して―」と池田幸典氏（愛知大学）「資本・持分・純資産―概念と用語の整理―」の 2 報告が，第 2 会場は，原俊雄氏（横浜国立大学）の司会で，西村昭一郎氏（龍谷大学大学院生）「売買目的有価証券の帳簿記録と表示」，中田麻貴氏（豊橋創造大学）「商業簿記の教育に関する一考察―商業高校における「課題研究」を中心として―」，および，青木孝暢氏 (白鷗大学)「前払費用に関する会計的性質の再検討」の 3 報告が，そして，第 3 会場では，成川正晃氏（東北工業大学）を司会に，飛田努氏（福岡大学）「中小製造業に見る管理適合的な記録とは―「管理中心主義」からの検討―」，山下修平氏（秀明大学）「戦時期日本の経理統制下における勘定科目の標準化―大規模製紙業を事例に―」，および，浦崎直浩氏（近畿大学）「任璟宰『簡易商業簿記學』の研究」の 3 報告がそれぞれ行われた。また，自由論題報告の後に統一論題討論が行われ，座長の松本敏文氏を中心に，3 名の報告者とフロアからの多くの参加者を交えながら，活発な討論が展開された。

十分な準備もできないまま大会当日になり，準備委員一同，危惧しながらの運営ではありましたが，参加会員の皆様方のご協力を得て，すべてのプログラムが滞りなく進行できました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

《日本簿記学会会則改正について》

日本簿記学会会則について下記の通り改正がなされた。

新	旧
昭和60年10月12日制定 平成30年8月24日最終改正 （事業） 第3条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。 (1)　毎年1回の大会および必要に応じ地域部会における会員の研究発表ならびに討議 (2)　簿記の理論・教育・実務に関する研究部会の設置 (3)　学会誌および学会ニュースその他簿記に関する刊行物の発行 (4)　学会賞および奨励賞の授与 (5)　その他本会の目的を達成するため必要と認められる事業	昭和60年10月12日制定 平成29年8月25日最終改正 （事業） 第3条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。 (1)　毎年1回の大会および必要に応じ地域部会における会員の研究発表ならびに討議 (2)　学会誌および学会ニュースその他簿記に関する刊行物の発行 (3)　学会賞および奨励賞の授与 (4)　その他本会の目的を達成するため必要と認められる事業

平成29年8月25日以降，平成30年8月22日までに申し込まれ，8月23日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入　会　会　員　名　簿

（名簿の番号は会員番号）

番　号	氏　　名	所　属　機　関	番　号	氏　　名	所　属　機　関
2018-001	中村　徹	仙台青葉学院短期大学	2018-014	磯野　裕貴	千葉商科大学会計教育研究所
2018-002	斉　芙蓉	PwCあらた有限責任監査法人	2018-015	小谷　学	熊本学園大学商学部
2018-003	許　英姿	明治大学商学部	2018-016	青山　訓与	高崎商科大学短期大学部
2018-004	島永　和幸	神戸学院大学経営学部	2018-017	杉本　直記	愛知学泉大学
2018-005	山口　峰男	PwCあらた有限責任監査法人	2018-018	朱　愷雯	沖縄大学法経学部
2018-007	山本　健人	熊本学園大学商学部	2018-019	久禮　由敬	PwCあらた有限責任監査法人
2018-008	滝　陽介	静岡県立島田商業高等学校	2018-020	友寄　隆哉	産業能率大学情報マネジメント学部
2018-010	小澤　義昭	桃山学院大学経営学部	2018-021	関　憲治	昭和女子大学グローバルビジネス学部
2018-011	岡村　雄輝	鹿児島県立短期大学	〈準会員〉		
2018-012	久保田　俊介	千葉商科大学会計教育研究所	2018-006	笹田　博	佛教大学大学院修士課程
2018-013	相原　安澄	千葉商科大学会計教育研究所	2018-009	木村　太一	慶應義塾大学商学研究科

編集後記

学会ホームページのリニューアルがほぼ完成し，今後，情報発信をより迅速に行えるようになります。さらに内容の充実を図ってまいりますので，ぜひ定期的に学会のサイトをご覧ください。

（石光・小澤・小阪・中村・兵頭）

発行所
編集兼
発行人　日本簿記学会事務局

事務連絡所
〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail　boki@hakutou.co.jp
URL http://www.hakutou.co.jp/boki/